

令和元年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立洛水高等学校 】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	第1学年生徒 200名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (保健体育科) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	・オリンピック・パラリンピックへの関心を深め、努力することの大切さを気づかせる。 ・オリンピック正式種目を目指すラクロス競技のアスリートとして活躍する選手から勇気をもろう。 ・スポーツへの誘い・自己肯定感の醸成。
5 取組内容	(1) 講演 日時 令和元年9月30日(月) 13:15~15:05 講師 山田 幸代氏(プロラクロスプレイヤー) 講師の主な競技実績 ・2005年ラクロス日本代表、ワールドカップ5位入賞 ・2007年プロ宣言し、オーストラリアの強豪チームに所属 ・2016年ラクロスオーストラリア代表に選出 ・2017年ラクロスオーストラリア代表 ワールドゲームズ 銅メダル ① 題名「ゼロからの挑戦」 日本のラクロスを強くするため、プロ宣言し世界のトップを経験したラクロス界のパイオニア。日本ラクロスの代表監督として、日本を強くし、日本の子どもたちの将来の夢が「ラクロス選手になること」になるよう長期目標を掲げ、日々積極的に活動している。



② 内容

ア ラクロスの歴史

イ 0から1への挑戦

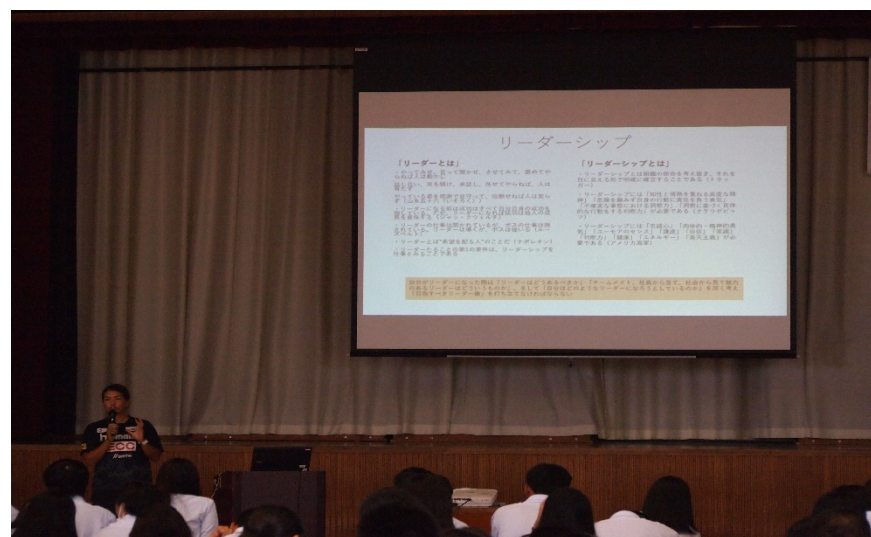
子どもたちにラクロスを広く伝えたいということを目指し、オーストラリア代表を目指した。

ウ 海外チャレンジで学んだこと

10個良いことを褒めて、1個直すことを伝えること。何事にも楽しむということ。多文化コミュニケーションがはかれること。

エ リーダーシップとは

一歩踏み出す力の必要性。目標は、細分化して取り組む。2028年LAオリンピックでラクロスを正式種目にするためラクロスの普及を行っている。



③ 体験

各クラスの代表者が実際にクロスを持ち、パスキャッチとシュートの体験を行う。



パスキャッチ



シュート

④ 質疑応答

<p>6 主な成果</p>	<p>ラクロス競技の第一人者である山田幸代氏にご講演いただき、オリンピックで正式種目に採用されるための日々の取り組みを聞くことによって、継続することの大切さやそこから得た学びをどう活かすかなど多く学ぶことができた。 ラクロスを実際に体験することにより、新しいスポーツへの関心が深まりスポーツに対する視野が広まった。</p>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>ラクロスの実技体験は、短時間のため「できた」という達成感を高めることを目標に、室内用の簡単にボールをとることのできる用具に変更する工夫をした。 普段、行わないスポーツの体験やオリンピックで正式種目を目指す選手の話聞き挑戦することの大切さを少しでも感じさせたいと思い取り組んだ。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>講演・体験が第一学年のみであったので、学校全体で取り組めるような工夫が必要である。 講師選出や取組内容の検討に、時間がかかること。</p>
<p>9 来年度以降 の実施予定</p>	<p>未定</p>